

第24回地域福祉実践研究セミナー IN 愛知・半田

ワークショップ 第7分科会 報告

(テーマ)

まちをよくするしくみ～“志金”ファンドレイジングについて～

実践報告者 社会福祉法人日光市社会福祉協議会
ファンドレイジング計画アドバイザー 長井一浩さん
NPO法人地域福祉サポーターちた 理事 岡本一美さん

アドバイザー 日本福祉大学 社会福祉学部 日本地域福祉研究所客員研究員 野口定久さん
日本地域福祉研究所（琴平町社会福祉協議会） 越智和子

地域担当者 社会福祉法人半田市社会福祉協議会障がい者相談支援センター副センター長 小島寛さん
特定非営利活動法人日本地域福祉研究所作成 複写禁

参加者状況

1. ワークショップ会場名 半田市役所 1階多目的ホール

2. 参加者人数と内訳

25名（内訳）

社会福祉協議会 11名

NPO法人 4名

個人・社団法人・社会福祉施設

大学教員・介護保険事業者各1名

学生 5名

目 的

地域福祉を推進する財源として、ファンドレイジング(活動を推進する上で必要となる資金を集めること)が注目されている中で、従来の共同募金の考え方も含めて、寄付・会費・助成金(補助金)・事業収入・融資などをいかに最適なバランスで獲得していくのか、そしてどう有効に活用していくのかを考える。

展 開 方 法 (1)

1、担当者から分科会関係者の紹介と挨拶

2、半田市(社協)としての課題や背景について

半田市社協 小島 寛さん

半田市にはNPO法人が50近くあり、それぞれが活発に活動に取り組んでいる。社協としても小地域活動に取り組む中、住民座談会などで新たに提起される活動が継続するための財源が懸念される。半田市総合計画や地域福祉計画の中には住民活動への支援が位置付けられていることから、その在り方を考えたい。

○担当する業務や担当地区の実践からの気づきを発表。

3、新しい地域福祉財源の取り組みとして「ファンドレイジング」について学ぶ

講演：～まちをよくするしくみ～ “志金” ファンドレイジングについて

特定非営利活動法人 明日育 常務理事 長井一宏さん

○講演前のアイスブレイクにより、参加者の緊張もほぐれ、会場和やかな雰囲気になる。

展 開 方 法 (2)

4、アドバイザーからのコメント

日本福祉大学 野口定久先生

①地域福祉活動の財源は、これまで補助金等で占められていたが住民による活動の育成やNPOの設立が進んできたことから地域経済が地域福祉活動と結びついた財源調達活動が注目されている。

②先行理論として、伝統的な互酬慣行の再活用などにより現代の状況に適応した形で地域社会に準(疑似)市場作るなどのローカル・ガバナンスの論理を紹介(飯田市や東京都の取り組み)。

③韓国¹⁾の社会福祉と地域循環経済の複合事業「美しい隣人」事業を市場を使って地域課題を解決する取り組みとして紹介。

5、地元、知多地域の取り組みの紹介。

①NPO法人地域福祉サポートちた

岡本一美さん

知多地域のNPO活動について、財源問題を含み取組について

②知多信用金庫

池田美恵子さん

地元金融機関としての活動支援の取り組み

展 開 方 法 (3)

③知多半島観光圏協議会事業推進事務所 松見直美さん

人的、組織的つながりの好事例、また福祉と観光の連携実践

6、琴平町社協「ガリック娘」の取り組み アドバイザー 越智和子

地域特産品を活用した6次産業に福祉と教育が参加した取り組み

※以上の実践報告を休憩をはさみながら聞き、これからの地域福祉財源をどう考えるか。「ファンドレイジング」の基礎とそれぞれの組織や団体での実践事例から、分科会参加者が自らの取り組みを整理し、課題と今後の実践に生かしたいことを書き出した。

7、グループ協議

○5グループに分かれ、各自で書き出したものを基にこれからの取り組みについてグループで協議。

結 果 (1)

1、ファンドレイジングについて理解が深まった。

非営利組織や団体にとってのファンドレイジングという事で「会費、寄付、募金」について講師からの説明があった。また、それぞれの団体が実施している活動から学びを深めた。

- ①募金、寄付活動には共感を得ることと参加を増やすことが重要である。
- ②誰のための、何のための募金活動であるか目的が明確にする。
- ③課題解決を目指す、ニーズにそくした募金活動であることへの理解が深められているか、伝えられることが重要である。

2、社会福祉協議会活動が充分地域に理解される取り組みが必要である。組織としてのミッションや活動を明確に伝えなければいけない。

- ①活動プログラムを提示し、住民の理解だけでなく評価ができる仕組みが望ましい。

結 果 (2)

3、非営利組織・団体の活動は人と人のつながりが大事である。

①活動を創るうえで、理解を得るための努力が重要である。

②理解され、共感される情報と課題解決に向けた目的を持った取り組みであることを伝えられるスキルが必要。

考 察 (1)

- 1、これからの地域福祉を進める中で財源についての理解や共感を得ることが重要である。これまでのように公費だけに頼るのではなく、地域の中で取り組む課題解決のために必要な経費として積極的に取り組まなければならない。
- 2、社会の変化によりこれまでの募金活動や寄付行為の意義や位置づけを見直すとともに、NPO法人や先駆的な取組から学び、これからの展開に必要な視点を考える。

結論 ・ 今後の展望

1、地域福祉についての理解を進める中に財源確保についての理解や共感を得ることは重要である。これまでのように公費だけに頼るのではなく、地域の中で取り組む課題解決のために必要な経費として明確にしなければならない。活動の具体的な取り組みが理解されていない事や目的が明確に示されていない等を検証しなければならない。

2、活動に賛同し参加する人が募金活動においても理解者であるという事実からこれからの取り組みを見直すことができるのではないか。また、募金や寄付について理解を求めるうえで数字で示すことが有効である。

3、従来の活動を踏襲するだけでなく、柔軟な発想や新しい関係性の構築、また、地域社会の変化や地域特性に応じて取り組まれた活動は課題解決のみならず雇用を創出することや、計画的な取組により地域経済にも影響を及ぼす。これからの地域社会の中で新たな関係性の構築をめざし、その調整役を社会福祉協議会が担うことが求められる。